



〒892-0841
鹿兒島市照国町13-42
カトリック鹿兒島司教区
電話099 (226) 5100
振込口座 02030-2-8359
編集発行 教区広報部
1部60円年間千共1100円

道標



こだわりの捨てて神に己を委ねよう

今年のザビエル上陸記念祭で司教が強調

恒例の「ザビエル上陸記念祭」が今年もザビエル上陸記念碑前からザビエル教会までを徒歩巡礼するザビエルウォークと記念ミサ、鹿兒島ユネスコ協会と協力して実施している「平和の鐘を鳴らそう」で八月十五日(木)に実施され、三百人ほどの信者が集い、ザビエルが運んで来た福音(平和)を一人でも多くの市民に届けようと祈りをささげた。

ザビエルウォーク
午前八時にザビエル上陸記念碑前(鹿兒島市祇園之洲)を出発し、ザビエル教会を目指したのはお年寄りから子どもまでの約七十人だった。

た浦上の信者五十三人が眠る墓がある福昌寺を巡る従来の四・四キロのコースに戻して実施された。一行は住宅地や交通量の多い国道十号線沿いなどを「カトリック鹿兒島司教区」のプラカードを先頭に幟をかかげ、聖歌を歌い、ロザリオの祈りを唱えながらの暑い夏の巡礼を行い、道行く人にザビエルの熱き思いを伝えるために汗を流した。



①暑さに負けずザビエル教会を目指す一行
②鐘を打ち鳴らす田中会長と郡山司教

ザビエル上陸記念ミサ
午前十時三十分からはザビエル教会で聖母被昇天とザビエル上陸記念のミサがささげられた。ミサを司式

「みんな神さまのこども」をテーマに

教区主催で教会学校合同キャンプ

教区評議会で開催が求められ、郡山司教をはじめとする教区で働く司祭たちの願いともなっていた小教区を超えた教会学校合同キャンプ(聖書学校)の開催が、八月四日(日)から二泊三日の予定でマリア山荘で実現した。

第一回目となった今年のキャンプには、六つの小教区から二十六人の子どもたちが集まり、韓国人神学生、ボランティアの温かい眼差しと協力の中無事終了した。今回は小学生が対象だったため、低学年の参加が多かったが、四つのグループ「マリア」「キラキラ」「神の子」「ザビエル」に分かれ、それぞれに楽しい時間を過ごしたようである。



品となり、そのロザリオでの祈りは心のこもったものとなった。子どもたちはこの手作りのロザリオを持って来年もこの集いに参加することを誓い合って家路についた。(報告・泉浩二)

「みんな神さまのこども」を心に刻み、祈り、ミサ、ロザリオ作りなどで神さまの子どもとして頑張る姿を見せてくれた。また特に今回は、隣の聖血礼拝会を見学したが、そのシスターたちのホスチア作りが印象的だった様子。

祭壇奉仕者に選任
貴島丈弥神学生
フィリピンは聖カルロス神学院で学んでいる教区の貴島丈弥大神学生が八月十一日(日)マニラ大司教区の「聖ペトロ聖パウロ教会」

に委ねるといふ謙虚な生き方にふれ、その上で「自分の小さな世界とつながるべきこと」を第一歩にする。聖母マリアや聖ザビエルの生き方を信者の生き方の手本としよう」と信者たちを励ました。

平和の鐘を鳴らそう
ミサの終わり「閉祭の儀」の前には田中弘允鹿兒島ユネスコ協会会長と郡山司教が平和について講話した。この「平和の鐘を鳴らそう」の催しは二〇〇四年から鹿兒島ユネスコ協会と鹿兒島教区が協力して実施しているもので今年が十回目。戦

争の悲惨さを訴えた田中会長が「一人ひとりが心の中に平和の砦を築くことが世界平和への第一歩になる」とメッセージを送ると引き続き郡山司教も十字軍の遠征を例に挙げ、「自分の立場を主張するだけでは平和は実現しない。思い込みを捨て、何が正しいか識別する力を養おう」とメッセージを送った。退堂後教会前広場に集まったミサの参列者は、郡山司教と田中会長、ユネスコ関係者、青年、子ども、信徒代表たちが正午の時報に合わせて打ち鳴らしたザビエル教会の鐘の音に合わせて「世界の平和のために」祈りをささげた。

浜田盛茂神父帰天
コンベンツアル会の浜田盛茂神父(古田町教会)が七月二十六日(金)午前七時五十九分、急性呼吸不全のために、入院先の徳洲会病院(奄美市)で帰天した。七十八歳だった。



浜田神父は嘉渡教会の出身で、一九五六年にコンベンツアル会に入会、その二年後に初誓願を宣立、司祭に叙階されたのは一九六六年三月だった。司祭叙階後は途中アメリカ派遣や本部修道院勤務もあるが、主に奄美大島で活躍してきた。その神父の葬儀は、七月二十八日にコンベンツアル会奄美修道院のある古田町教会でしめやかに執り行われた。

でささげられたミサの中で、祭壇奉仕者に選任された。貴島神学生は奄美市の出身の三十六歳。二〇〇六年春に教区神学生として司祭職を目指して歩みを始めていた。

朗読奉仕者選任から四年をかけてたどり着いたこの選任式には鹿兒島教区からはP・アン神父(ザビエル教会)が司教代理として参列した。【三面に関連記事】

鹿兒島で全国大会

カトリック幼稚園連盟

日本カトリック幼稚園連盟主催の「教職員研修大会」(実行委員長・福崎英雄神

二〇一三年 教区フェスタ

日時 9月15日(日) 午前11時
場所 鹿兒島カテドラル・ザビエル記念聖堂
内容 献堂記念ミサ
※ミサ後、持参の昼食で信徒同士の交流を図りましょう。

ルカ福音書でイエス様は「神の国はあなたがたの間にあるのだ」と仰いました(17・21)。この言葉から、「神の国」とは私たちの心の中にあるもの、と考えてはいけません。

また、神の国とは死後の世界や仏教で言うところの天国・極楽のことでもありません。神の国とはイエス様を通じて実現することの地上での国のことなのです。なぜなら、イエス様はこの地上にお生まれになり、死と復活を経て、再びこの世界に來られるからです。こ

のイエス様の復活こそ神の国がこの地上で実現することの証であり、私たちの信仰に於ける希望なのです。現実を考えれば今、この

鈴木神父のやさしいみことば 神の国の実現について考える

世界は神の国とは言えませんが、確かに、イエス様は神様の愛する子であり、御旨に適用者です(3・21、22)。また、神の国はイエ

ス様の到来によって実現するものです(4・16、21)。しかし、神の国が完成するためにイエス様が教えてくださった最も大切な掟で

き、この地上は神の国となるのです。そのときにこそイエス様は再びこの世界に來られるのです(21・27)。このためイエス様はこの二つの掟を与え、そしてそれを証していく使命を弟子たちを通じて私たちの教会に与えたのです。このように、教会に属する者がイエス様に代わって神の国が実現するために働くことから、「教会はキリストのからだ」と言われているのです。

この世界で神の国がこの世で実現することなどあり

教会学校合同キャンプ感想文

みんな神さまの子ども！

国分教会

屋宜アレキサンダー

ぼくは、都合でキャンプ二日目の朝に來ました。朝のミサ、朝食が終わって修道院に行って、シスター方がホスチアを作っているところを見学しました。そこで小麦粉やホスチアを食べました。その場所は、司教様でも入ることができないところらしく、とてもいい経験ができました。

その後、世界で一つだけの自分の口ザリオを作りました。その口ザリオで初めてのお祈りをしました。そしてその後、じゃぶじゃぶ池で水遊びをし、スイカわりもしました。ぼくがわっちやいました。夜はバーベキュー、花火をしてお風呂に入って寝ました。その次の朝は、朝ご飯を食べ、お祈りをしました。二日間おもしろかったです。来年もきたいです。(小五)

鴨池教会

西田永志

シスターたちのいる修道院にぼくたちは行ききました。ぼくたちはホスチアの作り方を見ました。ホスチアはいろいろな種類があって、見たことのない大きさがあってびっくりしました。もつとびっくりしたのは、いろんなところから申し込みがきているということとです。外は雨が降っていやなきぶんになったけど、だんだん晴れてきてとてもうれしく、楽しかったです。(小四)

ザビエル教会

向井のこ

始良教会でコルベ神父様のお話を末吉神父様に聞きました。コルベ神父様の髪の毛がかざってありました。その髪の毛は小さくて黄色でした。私はコルベ神父様の髪の毛をはじめて見たのでびっくりしました。そして次の日、ホスチアづくりを見学しました。やく

まえのきじやできたてのホスチアを食べさせてもらいました。とてもおいしく目がまんまるくなりました。ベトナムのシスターがすくくにこにこしていました。日本語がすくくじょうじゅうでした。(小二)

ころを見に行きました。まだ神さまになっていないホスチアを食べさせてもらいました。その後、じゃぶじゃぶ池に行つて遊んでいとゲンゴロウを見つけてました。スイカわりもしました。(小二)

き、この地上は神の国となるのです。そのときにこそイエス様は再びこの世界に來られるのです(21・27)。このためイエス様はこの二つの掟を与え、そしてそれを証していく使命を弟子たちを通じて私たちの教会に与えたのです。このように、教会に属する者がイエス様に代わって神の国が実現するために働くことから、「教会はキリストのからだ」と言われているのです。

三つ目の思い出は、お出かけのとき公園の池で遊んだことです。水をかけあつたり、橋を渡つたりしました。池からあがつてスイカ割りもしました。私は割ることはできなかったけど、スイカにひびを入れたお友だちや割つたお友だちはとてもうれしそうでした。それからみんなで割つたスイカを食べました。甘くてとてもおいしかったです。最後にこの三日間、事故やけがないように祈つてくださったお父さんやお母さん、そして神さまほんとうにありがとうございました。来年も行って、いい思い出になりますように。(小五)

が嫌いかという、友達がいざなうからさびしかったからです。でもこの人たちは優しくすぐ友達でできたのでうれしかったです。もう二度と友達のできないさびしいキャンプにはしたくありません。修道院での発見ときびしいルール

ぼくたちは二日目に神さまの体をどこで作っているのかというところで、隣の修道院に行きました。めつたに入ることのできないところですが、今日は特別に入ることができました。中はとても広く、鬼ごっこができて楽しかったです。そして本題のパンを作っているところに行くところ予想外でした。ひとつひとつ手作業で、二百個以上作っていました。特大サイズ、ビックサイズ、普通サイズなど見せてくれました。各教会にも配っているそうです。最後に衝撃的な事実が分かりました。シスターたちは外にも出ず、人たちにも会えないからすごい覚悟をもっているのだと思いました。(小六)

玉里教会 竹下杏菜

最初ザビエル教会に行つて、バスで始良教会に行きました。教会で神父様がいろいろなお話をしてくださいました。その中で一番心に残つたことは、ステンドグラスの話とコルベ神父様の話です。その後、マリア山荘に行つて、散歩に行つたりしました。その日の夕ご飯は、カレーでした。そして次の日、ホスチアを作っている

出水教会 新富眞子

私にはこのキャンプでの思い出が三つあります。一つ目は、全員の女の子と友達になれたことです。最初は「友達になれるかなあ」とか、「どんな人たちかなあ」とかを考えていましたが、みんなとても優しく

出水教会 新富眞子

初めの出会いとキャンプは嫌いで行きたくありませんでしたが、参加して正解でした。外国人の人たちにも会えたし、多くの人たちと友達になれました。そしてグループのリーダーとして仕事もできました。なぜキャンプ

阿久根教会 石神志穂

初めての出会いとキャンプは嫌いで行きたくありませんでしたが、参加して正解でした。外国人の人たちにも会えたし、多くの人たちと友達になれました。そしてグループのリーダーとして仕事もできました。なぜキャンプ

国分教会 市来 房枝

「聖人」に認定されると決りたり先々代ローマ法王ヨハネ・パウロ二世カーテンを引かむと寄りし窓の辺に螢一匹舞ひ込みて来ぬ

洞窟にて天に召されしマグダラのマリアの波乱に富みし生涯想ふ

天草の島眺めつつ踏絵なる歴史を秘めし往時偲びぬ

鴨池教会 前田 儀子

預言者のエレミアの貌は苦しみを刻むがとき表情をせり

祭壇のグラジオラスはひとつひとつ長き花軸に朱の花咲かす

鹿兒島純心 川上 和

朝焼けや被昇天描く白雲のムリーリヨの手法まねて描きぬ



みんな笑顔で勢揃い

文

芸

俳句

鹿兒島純心 川上 和
夏バラに微笑む初代のこころ受け
出水教会 沖 弘子
日焼けして神父元気に感謝ミサ
奄美市 徳留かおり
楽しいなみんなと話していると
奄美市 林 常広
とうがらし庭になるかな夏至の頃
鹿兒島市 徳永ノブ子
お祈りは心の糧となり夕涼し
巡り来る想い起すや原爆忌
国分教会 政 ノブ子
青田風匂いも乗せて朝のミサ
純心学園 山頭 信子
マリアさまやつばりまんじゅう被昇天
ザビエルの巡礼ウオーク極暑なり

短歌

「聖人」に認定されると決りたり先々代
ローマ法王ヨハネ・パウロ二世
カーテンを引かむと寄りし窓の辺に螢
一匹舞ひ込みて来ぬ

洞窟にて天に召されしマグダラのマリア
の波乱に富みし生涯想ふ

天草の島眺めつつ踏絵なる歴史を秘め
し往時偲びぬ

鴨池教会 前田 儀子

預言者のエレミアの貌は苦しみを刻む
がとき表情をせり

祭壇のグラジオラスはひとつひとつ長
き花軸に朱の花咲かす

鹿兒島純心 川上 和

朝焼けや被昇天描く白雲のムリーリヨ
の手法まねて描きぬ

お恵みをたくさん頂こう

ミサ前にロザリオの祈りを始める

ザビエル会 教

ザビエル教会(P・アン神父主任司祭)の信徒たちの多くは、このところロザリオの祈りをささげながら主日のミサにあずかるようにしている。これはある日のアン神父

の説教での呼びかけに信者たちがこたえたもの。アン神父は「一昔前は、信徒が主日のミサに教会にやってくる時に目にしたのは司祭や修道者が祈りをささげる姿だった。これが信仰の模範になり、皆の励みとなっていた。そんな姿が教会の中で見られなくなっているのは寂しい。私はミサの前に聖堂の片隅で祈りをささげている。それは十分に伝えることができないようにとの思いからだ。だから私に挨拶する必要はない。皆もミサの恵みを受け取る準備のために、

神父さま、いつまでもお元気で!

谷山教会でフリチエル神父の送別会

七月二十八日(日)谷山教会では納涼の夕べを兼ねて、八月に日本を去り故国・ドイツへ帰国するW・フリチエル神父(レデンブートル会)の送別会を開いた。挨拶に立ったフリチエル神父は「ドイツの管区長から帰って来なさい。受け入れる環境は整っていると言われた。命令だから仕方ないが、私は喜んで帰るわけではない。それは五十七年間、苦勞を共にして来



ミサの恵みを大切にしようと祈りをささげる

た日本が大好きだからだ。それに今さら帰国しても私にとつては外国へ行くようなもの」と心境を語った。その上で、高齢になった宣

祭壇奉仕者に選任されて

教区大神学生 貴島丈弥

朗読奉仕者選任から四年の後、やっと祭壇奉仕者選任の恵みを受けることができました。簡単な道程ではありませんでしたが、そのぶん自分を知らず、霊的にも成長してきたと思います。特に四月から五月にかけて体験した三十日間の黙想会ではかけがえのない経験をさせていただきました。

自分の愛し始めた時、主イエスとの再会を果たすことができました。そして、今回は神の母マリアさまとの個人的な出会いが自分にとって一番大きな出来事でした。マリアさまの目と心によつて自分を見た時、初めて自分を赦すことができました。この経験なしで今回の祭壇奉仕者の恵みを受けることはできなかったと思います。そして、皆さんの祈り、支えに心から感謝しています。これからまだ長い道程ですがお祈りよろしくお願います。



荘厳な選任式(中央:貴島神学生)

オの祈りをすると呼びかけ実行に移した。八月四日(日)この日もミサの始まる三十分前には百人ほどの信徒が聖堂に集まっていた。先唱者の祈りにこたえ聖堂内に大勢の祈りが響き渡る、まさに祈る教会への第一歩を踏み出したザビエル教会の姿がそこにあった。

短信

募金を被災地に(谷山教会)

東日本大震災復興に協力しようと、谷山教会では募金活動を行い、納涼の夕べ(七月二十八日)の収益と合わせて六万三千円をカリタス大植ベース(川口茂ベイス長)に送金した。

喜界島で初めての堅信式

献堂から三十一年目の喜界島教会で八月十一日(日)、初めてとなる堅信式があり、小学生と中学生それぞれ一人ずつが堅信の恵みに浴した。初めての堅信式で説教した郡山司教は「堅信とは洗礼を受けて神さまの子どもとなったことを喜び、そして大人の信者として自覚と責任を持つてパワーアップするためのもの。これからはいつも教会というチームの監督でもあるイエスさまに『はい』と返事ができるように頑張ってください」とメッセージを送った。

教師たちの将来を危惧し「最後まで安心して生活でき、職務をまっとうできる環境整備も必要」と。神父のこの発言には皆で考えなければならぬ現実だと感じた。

また八月一日(木)にはレデンブートル修道会主催で神父への感謝ミサと送別会を開催したところ、谷山教会だけでなく他教会からも大勢の信者が駆けつけ、その数二百余となった。集まった信者たちはそれぞれに神父のこれまでの功績に感謝し、惜しめない拍手を送るとともに、これからのドイツでの働きが充実するよう祈りをささげた。(報告:谷山教会レポーター)

平玲子さんが県知事表彰

浦上教会(大熊小教区)所属の平玲子さんが、地域医療の発展に貢献した看護業務功労者として県知事表彰を受けた。平さんは県立大島病院総看護師長を経て、現在は奄美看護福祉専門学校で副校長を務めている。約四十年にわたり、看護師、助産師として多くの命とふれ合ってきた。六十五歳。

会と催し (9月)

- 1日(日) 年間第二十二主日
- 8日(日) 川淵勇神父命日(一九九七年)年間第二十三主日
- 14日(土) レデンブートル会黙想会・14日七田和二郎神父命日(一九八九年)十字架称賛
- 15日(日) 宣教学校・教区本部・10時 糸永真一名誉司教司祭叙階記念(一九五二年)年間第二十四主日
- 16日(月) 司教座教会献堂記念日 教区フェスタ・カテドラル・11時 司祭評議会・教区本部・14時
- 17日(火) 教区司祭会・教区本部・16時 定例司祭集会・教区本部・10時
- 21日(土) 聖マタイ使徒福音記者 年間第二十五主日(世界難民移住移動者の日)
- 22日(日) 奄美の宣教司牧を考える会
- 23日(月) ダニエリ神父命日(二〇〇三年)
- 24日(火) バルビニ神父命日(二〇〇四年) 奄美例会
- 27日(金) メニヒ神父叙階記念(一九五九年)年間第二十六主日
- 29日(日) テイエソ神父霊名(聖ガブリエル)

祈りの意向

【ノベナ】 教区フェスタに向けて、信者の和解と一致のために

【祈祷の使徒云】 一般・沈黙の価値 教・迫害されるキリスト者 日本教会・移動者への配慮

※お詫びと訂正 先月号で「聖の里」の電話番号等を誤って掲載いたしました。正しくは「☎〇九九(二二五三)六七六八 押川ハル子」です。お詫びし訂正いたします。

+KABAYAN SEKSIYON+

Abba: Pagkakatilanan kay Hesus

Marami sa mga kredo ng mga Kristiyano ang tumatawag sa Diyos bilang "ang Ama, ang makapangyarihan sa lahat." Ang pagtukoy sa Diyos bilang "Ama" ay isang personal na pagtawag, pagsasaysay sa kanyang malasakit para sa lahat ng sangnilikha, lalo na sa lahat ng tao.

Ang pagkalinga ng Diyos sa kanyang bayan na tulad ng isang ama ay matatagpuan sa Matandang Tipan (Dt.7:6-9); datapuwa't inihahayag ni Hesus ang isang ganap na kakaiba at malalim na kahulugan sa pagtawag sa Diyos na "Ama." Tinatawag na Ama ang Diyos 170 ulit sa mga Ebanghelyo [Marcos(4); Lucas (15); Mateo (42); Juan (109)].

Ang pagiging Ama ng Diyos ay isang malinaw na batayan ng buhay at panalangin ni Hesus. Kadalasang nagdarasal si Hesus sa kanyang Abba. Tinatawag niya ang Diyos na "aking Ama" (Mt.11:26; Lc 10:21). Ang kanyang misyon ay mula sa Ama (Jn 17:1,5,11, 21,24,25). Bumabaling siya ang kanyang Abba sa mga matitinding sandali sa kanyang buhay: Getsemani (Mc 14:36; Mt 26:42), Kalbaryo (Lc 23:34). Ang kanyang mga huling salita ay: "Ama, sa mga kamay mo ay ipinatagubilin ko ang aking espiritu" (Lc 23:46).

Sa madaling sabi ang kamalayan ni Hesus ukol sa kanyang Abba ay nagpapakita sa kanyang identidad bilang tunay na Anak ng Diyos—isang batayang katuruan ng pananampalatayang Kristiyano.

Dahil sa pagtanggap natin ng binyag, tayo rin ay tinatawag din tayong mga anak ng Diyos at gayundin ay may karapatan din tayong tumawag sa Ama na nasa Langit. Kaya, pagdasal natin ng "Ama Namin" ay ipinapahayag natin sa ating pananampalataya ang pagtawag sa Amang nasa Langit. Siya ang Ama natin na palaging pinapakingan ang ating mga dasal.

聖堂床の改修工事を終える

大熊小教区の芦花部教会

大熊小教区（栃尾泰英神父）の巡回教会「芦花部教会」では、七月から老朽



明るくよみがえった芦花部聖堂

化した聖堂内床と壁の改装工事を終えた。約一か月の改修工事に汗を流したのは、大熊小教区のヨゼフ会とマリア会のメンバーたち。これに主任司祭・栃尾神父も作業着姿で奮闘し、所属信徒で大工の青堀景雄さんの指導のもと黙々と作業を続けた。そのためこれまで畳だった信徒席床はフローリングとなり椅子が置かれた。また壁には白色のクロスが貼られ聖堂全体が

明るくなったという。作業した信徒たちは今は亡きゼローム神父が「芦花部の教会をつぶすな」と言っていたが、これを機会に新しい息吹が起るのではと期待しているという。よみがえった芦花部教会

では、八月十一日（日）地区長の永山幸弘神父を招き改修工事を完了感謝ミサがさげられた。この日のミサは、多くの信徒が教会に集まり、ミサ後にはマリア会手作りの料理で、和やかな時間を過ごすことができた。（報告・嘉元伸一）

偉大な功績を後世に伝えたい

大島地区でゼローム神父の胸像建立を計画

今年、ゼローム神父（コンベンツアル会）の没後十年を迎えた奄美大島の教会では、「奄美の人々の幸せのために人生をささげた」神父の功績を伝えることに決め、胸像を建立することを決め募金活動を始めた。米国はコネチカット州に生まれたL・ゼローム神父が奄美大島に足を踏み入れた。



故ゼローム神父

たのは、叙階から四年後の一九五二年十一月のこと。以後、二〇〇三年三月に隣臓癌で天に召されるまで奄美の人々のために、特に福祉の充実のために東奔西走した神父だった。その神父の功績は教会外からも評価され、名瀬市名誉市民、「南海文化賞」「南日本文化賞」「毎日社会福祉顕彰」などを受けている。そんな偉大な神父の功績

テーマは「家族の信仰」 小宿小教区で分かち合い

小宿小教区（G・テイエン神父主任司祭）では八月四日（日）、小教区の六つの教会の信徒が小宿教会に集い、合同ミサをささげ、ミサ後には、信徒館で信仰体験の分かち合いを開きました。

復活祭に引き続き三回目となった今回の分かち合いは、十一月三日（日）に奄美大島地区で開催される「信仰年・地区信徒大会」に向けての準備として行っているもので、毎月第一日曜日の合同ミサで小教区の信徒が集うのをその機会と



して活用しています。今回のテーマは「家族の信仰」でした。「家族は、小さな社会、小さな教会でもあります。この一番基礎となる家族の信仰が増すとき、親子や夫婦の関係は豊かな実を結びますが、小教区という大きな家族も同じです。私たちは、互いに祈り合い、愛し合いましよう」と、テイエン神父は呼びかけられました。

信徒たちからは「天に召された家族との和解、天国での再会への希望」「教会から離れている家族への祈りとやり直し」「年老いても信仰を老いさせない秘訣」「家族で唯一の信者であることの十字架と、信仰を証する喜び」など、身近な家族の中での体験が発表されました。すると教会の信徒間でのこととしては「み言葉を思い出して相手を許した」「バザーで皆を愛したところ神様の愛が返ってきた」「相手と心を一つにするために自分の心の痛みをささげた」などの体験が紹介されたほか、中学生からは「母親の中のイエス様を具体的に愛して感じた心の平和」が紹介されるなど、すばらしい分かち合いとなりました。（報告・小宿小教区レポーター）

被災地からの便り

鹿児島教区内の教会から黒砂糖が、それも島内各地の全銘柄がなんと四箱も届きました。被災された方々が元気になるように、「お茶っこ」などでお配りさせて頂きます。また他の教会からは「運営資金にして下さい」とご寄付を頂きました。感謝いたします。夏休みを利用して大阪府立高校、神奈川県立高校、カトリック系高校、「聖地の子供を支える会」

楽しかったね！夏の催し

司教さまも一緒に「鴨池祭り」

八月十五日（木）、聖母の被昇天のミサを終えた鴨池教会では、午後六時から壮年会主催の恒例の夏祭り「鴨池祭り」が行われた。主任司祭の泉浩二神父から生ビールが振る舞われると、皆で競って飲み尽くした。また今年は牛肉、野菜類が焼かれ、大変美味であった。ビールを飲み終わると続いては焼酎の振る舞い、皆で焼酎を片手に話に夢中になった。話の最中には、ドミニコ神父、神学生のピアンネさん（仁川カトリック大神学校三年生）も輪の中に入っておられた。この席で「聖ピアンネ」が、正式

にはヨハネ・マリア・ピアンネと称する方です。今年も味よく大変おいしく頂いた。塩加減がばっちりであった。この日は、このおにぎりが酒の肴となり、このコンビが大変良かった。開始から一時間も経った頃には郡山司教様もおいでになり、司教様を頂点にした一大家族のようになつた。司教様は、Tシャツに短パンという格好で、とてもフランクな方のように見えた。私は翌日仕事のため早目に失礼したが、この会はとても盛況に見えた。来年の夏祭りにも期待したいと思う。（報告・河野博）

募集

▼本部事務員（パート）
教区本部では受付・会計を担当する事務員を募集している。募集人員は一人である。①②の条件を満たす者。
①受洗後三年以上が経過し、日商簿記二級以上の取得者
②パソコン（ワード、エクセル）操作可能な者
【勤務】週に三日程度で、午前九時から午後五時まで。※就業時間及び勤務日については相談に応じる。
【賃金】時給七百五十円（通勤手当有り）

像建立実行委員会（栗栖二郎委員長）を設置、今年の五月から胸像建立のための寄付を願っている。

【募集期間】九月三十日（月）まで
【連絡先】教区本部・寝占敦之神父（TEL〇九九一二二六―五二〇〇）

おことわり
紙面の都合で、北薩カトリック大会での体験発表とキリシタンの歴史はお休みさせて頂きました。

マリア山荘黙想会案内

- (1) インドの霊性を体験する
内容：釈迦、ガンディー、マザーテレサの霊性を学び、黙想し、体感します。
日時：9月14日（土）10時～15日（日）17時
指導：F・ロボ神父（神言会・長崎教区西町教会・インド人）
費用：7,000円（宿泊代、食事代、謝礼を含む）
- (2) 愛とゆるし―教誨師53年の実践
内容：「人に喜びを与えるためにイエズス会に入った」講師の愛とゆるしを黙想します。
日時：10月19日（土）10時～20日（日）16時
指導：M・エルナンデス修道士（イエズス会・東京教区イグナチオ教会担当・スペイン人）
費用：7,000円（宿泊代、食事代、謝礼を含む）
※申込はマリア山荘（TEL0995-58-2994）まで。どちらの黙想会も部分参加できます。